

## 最終レポート

三年前の私は日本語教員を目指すことになるとは思っていませんでした。履修した理由は、二つあります。一つ目は友達が履修していたからです。二つ目は夢が決まっていなかったもので、何か資格をとっておきたいと思ったからです。教職だと、英語で話さなければならぬので、「日本語の方が簡単そう」という軽い気持ちで決めてしまいました。日本語教員はどのようなことをするのか、全然分からない状態でした。授業を重ねる事に楽しいと感じ、それに伴い、難しいことも増えていきました。印象に残っていることは、T先生の授業映像です。授業中、英語しか話していなかったのが驚きました。生徒もしっかりT先生の話聞き、率先して発表していて雰囲気がとてもよかったです。学習者のやる気を出させるために、褒める時はしっかり褒めていると思いました。テスト勉強をしている学習者には丁寧に教え、課題を出し添削も行い、一人一人何ができていないのか把握していたので驚きました。私の中学時代では、全然英語を話せず今も流暢に話すことはできません。しかしT先生の教えていたクラスでは、英語力のついた学習者が多く感じました。ずっとクラスで教えるのではなく、外に出て自然を感じながら英語を使って俳句を書いたり、ゲームをしたりアクティビティの中で楽しさを見つけました。学習者の発言が多く、先生は付け加え説明するだけで主体が学習者になっていたのが英語を話す機会が増え、楽しさへと繋がっていくのだと思いました。T先生の授業で、生徒にやる気を出させること、雰囲気作りが大切だと学びました。

雰囲気作りで大切な点は、教師の方針やクラスのルールを示し、集団づくりのフレームをつくることだと学びました。学級びらきで話し合いながらルールを決めていきます。学習者だけでなく教師にも約束を守ることを要求するので、学習者も責任を果たすことに積極的になります。クラスは教師と学習者でつくるものなのです。集中する時は集中する、ゲームで遊ぶ時は思いっきり遊ぶ、というメリハリをいれることも大切だと分かりました。メリハリをつけることでつまらない授業から刺激のある活動の場へと変わります。もちろん、ゲームの後には気が緩みがちですが、区切りをつけて授業を作りたいです。

学習者にやる気を出させるには、「授業が深くて楽しい！もっと勉強したい！」や「自分が伸びてきていることが分かる。できた喜びをまた味わいたい。」という気持ちを持たせることが大切だと学びました。授業が深くて楽しいという気持ちが生じるためには、学習者の心を惹きつけるための、アレンジを加える必要があります。自然に触れるために外に出たり、アクションで刺激を与えたりすることも可能です。学習者のやる気を高めるためには、自分自身できることを精一杯しなければなりません。楽しいと思えるように工夫することが大切なのです。日本語を嫌いな学習者もいます。みんな好きで楽しいと思える訳ではありません。その時には、日本語が嫌いになった原因を突き止めることが重要です。その原因が分かれば、できた喜びを味あわせ、やる気を出させればいいので、その積み重ねで自信をもつようになることが分かりました。

二年生の前期の、マイクロティーチングで授業した時は、アイコンタクトや指名を特に意識しました。フィードバックでは、間違いを訂正する時に自分が答えを言ってリピートさせる方法のみを使っていたので、他の学習者に当てて直す方法も試みたかったです。緊張していたせいか声も高くなっていて、ニヤニヤしていたのですが、今は改善できていると思っています。

実習の前の練習が大変でした。発音やイントネーションで、標準語だと思っていたものが方言だったりして、正しく読むことが難しかったです。学習者の間違えたイントネーションを聴き逃したり気づかなかったりしました。先輩の実習 DVD を見ると、正々堂々としていて、先生の顔になっていました。学習者も多く、その時に私には出来ないだろうと感じていました。私は緊張すると、何もできなくなります。みんなの前に立って発表することや、発言することが苦手です。そこで、少しでも慣れるように、大学生活で積極的に発言することを心がけていました。緊張はしますが、緊張していても持っている力を出せるようにと頑張りました。その結果、緊張していても少し余裕を持てるようになりました。この点に関しては、かなり成長したと思っています。

YMCA での実習は、辛いことの連続でしたが、とても楽しかったです。私らしい授業を行うことができました。しかし心残りの点があります。授業を行った時、たくさんの学習者を指名しました。名前を覚えていなかったのが名前を確認する手間がかかってしまいました。教師にとって、学習者一人一人の名前を覚えるのは必要不可欠です。学習者の名前を覚え語りかけることで、学習者との親近感が増します。学習者との心の距離も大切です。耳慣れない名前が多いので覚えるのが大変ですが、名前を覚えることも教師の任務ですから、覚えて授業をしたかったです。授業中は、緊張もして意識することも多く、いくら練習していても全部力が発揮できるとは限りません。思ったようにいかないことの方が多いと思います。私は一度落ち込むとなかなか立ち直れない性格です。ずっと引きずってしまいます。あまり深入りせず、ポジティブに考えることも大切です。前向きに考え楽しもうと心がけました。

三年間学んできましたが、一年生の頃と比べると心が強くなったと思います。一年生の時は、分からない単語を調べて用語を理解し、先生のあり方やクラスルーム運営を学びました。T 先生の DVD を見て、T 先生のような教師になりたいという憧れをもちました。二年生では、マイクロティーチングで簡単に授業を行い、今まで学習者だった立場から教師の立場へと変わりました。学習者だからこそ、こうすれば授業が楽しくなると分かるので、自分の経験を生かし活用していきたいという気持ちになりました。アイコンタクト、指名、フィードバック、立ち位置など実際に意識してみると、全部適切に行動することが難しいと実感しました。ずっと相手の目を見ることは出来そうでできなかったり、ここに立つとどの場所からは見えてどこから見えないのか把握できていなかったりと、できない事が増えていました。三年生では、実践になり教師の立場になりました。初めての教案作り、教材作りは不安しかありませんでした。教案を作るのに、かなりの時間を費やしていました。

教材作りでは模造紙をたくさん使いました。字の大きさを考え、貼る位置、剥すタイミング等、本当に考えることが多いです。妥協はしたくなかったので、したいと思うことは全部したつもりです。最後までやり遂げる力を身につけることが出来ました。

まさか私がここまでくるとは思っていませんでした。想像もつかないまま、いつの間にか終わっていました。精神的にも肉体的にも大変でしたが、楽しさとやりがいを感じていました。辛いことを乗り越えた先だからこそ得られる快感です。仲間を支えられながら最後までやり遂げることができ、日本語教員になるという目標ができました。教師のあり方についてはもちろん、仲間や先生の存在がとても大きかったです。人々が支え合いながら毎日を過ごしているということに、改めて気付かされました。